

長谷川鉄工

# アンモニア特化のガス検知器

バイオニクス  
機器と共同開発

## 冷凍施設向けに発売

今回開発した低温型方

アンモニア冷凍機に代  
表される自然冷媒を活用  
した冷凍機メーカーであ  
り、冷凍冷蔵設備のエン  
ジニアリングなども手掛  
ける長谷川鉄工（社長Ⅱ  
長谷川誠司氏、本社・大  
阪市港区）は、センサー  
メーカーのバイオニクス  
機器（社長Ⅱ小宮弘隆  
氏、本社・東京都東大和  
市）と共同で、アンモニ  
ア冷凍使用の冷凍施設向  
けガス検知器を開発し  
た。今秋発売する。

電気化学センサーによ  
る濃淡電池方式を採用し  
ており、低温環境（零下

25度C）での使用が可  
能。検知対象を冷凍倉庫  
内のアンモニアガスと  
し、アンモニアにのみ反  
応、検知する。アンモニ  
ア特化型のガス検知器は  
珍しい。

長谷川社長は「これま  
で電子式のガス検知器を  
使用してきたが（他のガ  
スも検知してしまう場合  
があり）誤作動を起こす  
ことがある。このため以  
前からアンモニアだけに  
反応する低温型検知器の  
開発を進めていた。冷媒  
の漏えい対策として活用  
していく」と話す。

ス検知器は冷凍庫内に設  
置する「センサー部」  
と、冷凍庫外に設置する  
「受信警報部」で構成。  
センサー部は壁掛け型、  
受信警報部はパネルマウ  
ント型と壁掛け型の2タ  
イプを設定した。センサ  
ーと制御部は1対1で構  
成しており、規模に合わ  
せて設置が可能。  
センサー部の検知方式  
には拡散式（隔膜電極  
法）を採用した。熱線型

半導体と比べて容易共存  
ガスの影響が少ないのが  
特長だ。検知範囲は0～  
150ppm、または0  
～400ppm。ゼロ点  
が安定しており、受信警  
報部の警報設定値には50

ppmの低濃度も設定で  
きる。  
価格は現状未定だが  
「常温タイプと比べて若  
干高い設定を予定してい  
る」という。